

新宮町立花口区の古民家保存・活用のための認証制度の開発

建築都市学部
都市デザイン工学科
教授
山下 三平



研究シーズの紹介

現代の空き家問題とは裏腹に、居住者不在の古民家を地域に生かす動きも活発です。しかし指定文化財のように価値が明確ではないが、地域らしさを決定づける普通の建物は、急速に失われるリスクが高いといえます。福岡県新宮町東部地域立花口区には、そうした古民家とくに「長屋門」と呼ばれる独特な建物が残っています。

そこで本研究は立花口区を対象とし、制度的ツールとしての

認証の仕組みを開発し、魅力的だが価値が定まらない建築物群に適用して、その保存・活用の実務に寄与することを目指しています。本研究では認証の手段として「立花民家」のプレートを作成し、認証を受けた建物の公表による普及の促進効果の検証を社会実験します。こうして地区の活性化を実践的に確かめつつ、制度の開発・展開を進めています。



古民家認証制度による新たな価値づけ

- 文化財としての評価をまたず、失われるかもしれない貴重な民家を保存・活用します。
- 地元の風土と人を熟慮した認証プレートは、建物の価値を高めます。



- 巨大な針が重なる古民家の土間の天井



- 残存する「長屋門」には老朽化が進むものも



九州産業大学景観研究セン

- 「立花民家」の認証プレートの作成が進んでいる。

期待される活用シーン

- 価値の評価が定まっていない古い民家を活用したい
- 取り壊されるのは惜しい



- 保存活用の手順と手段を提供

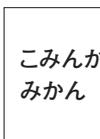


金沢市の「金澤町家」

- すでに整備が行われた古民家カフェを「まちなみ」として、まとめて生かしたい



- 認証プレートの普及によるブランドの連携と展開



こみんかみかん

その他の研究テーマ

- 小石原焼の里の生業・観光・風景の持続に関する調査研究
- 新設雨庭の水収支と植栽の実測評価
- 社会福祉施設職員の水害に対する意識に関する事例研究
- 相国寺の枯山水庭園における雨水浸透機能の実測と評価
- 新宮北小学校における雨水管理機能の継続的調査